

慢性硬膜下血腫

高齢者介護施設で働くスタッフが知っておくべき疾患はたくさんありますが、そのうち **慢性硬膜下血腫** は間違いなく代表的疾患でしょう。介護施設で暮らす高齢者は、どうしても時々転倒・滑落することが多いからです。以下、簡単に説明します。

【典型的な臨床像】 70歳代の男性が転んで頭を床にぶつけた。意識もハッキリしていて手足も普通に動いたが、心配になり脳神経外科を受診。頭部 CT にて明らかな異常を認めず、「頭部打撲後の注意点」を説明され帰宅。それから約 3 週間後、何となく片方の脚の力が弱くなったせいか歩きづらくなってきて、家族から「物忘れが進んだね」と言われるようになった。脳神経外科を再受診し、頭部 CT にて慢性硬膜下血腫と診断された。すぐに入院し、局所麻酔で手術を受けた。症状は改善し、約 1 週間後に退院。

【質問・会話形式で】

Q：血腫はどこに溜まるのですか？

A：硬膜の下、つまり内側。脳は 3 層の膜でおおわれていて、内側から軟膜、クモ膜、硬膜でおおわれています。軟膜は脳の表面にピタッとくっついていて脳そのものと言う感じ。その外側をクモの巣のようなクモ膜がおおっていて、さらにその外側に白くてシッカリした硬膜があります。血が硬膜と脳の間で溜まっている状態が硬膜下血腫です。血腫と言っても慢性硬膜下血腫では、典型的には融けて静脈血のような液状になっています。

Q：原因は何ですか？

A：頭をぶついたり尻もちをついたりして、2, 3 週間から 2, 3 ヶ月後に発症することが多いです。頭部打撲後すぐに撮った頭部 CT ではハッキリした出血はありません。頭部打撲でクモ膜が裂けて、その内側を循環している脳脊髄液がクモ膜と硬膜の間に貯留するとそこに出血してくる、という経過がしばしば見られます。頭部打撲や転倒が原因のことが多いですが、そのようなエピソードがないこともよくあります。脳梗塞や心筋梗塞の予防薬である抗血栓薬（いわゆる血液サラサラの薬。抗凝固薬と抗血小板薬があり、これらをのんでいると血が止まりづらくなるので、逆に出血しやすくなる）が原因のこともあります。

Q：症状など一般的なことを教えてください。

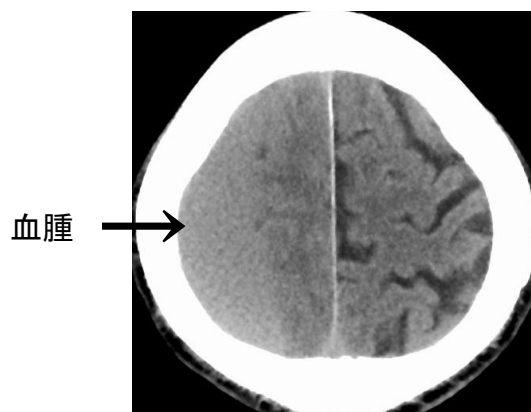
A：高齢者に多く、頭痛、片麻痺（片側の上下肢の力が弱くなる状態で、ふらついて歩きづらい、お箸や茶わんを落とす、字が下手になる、といった症状が現れます）、呂律障害、物忘れ、尿失禁などの症状が典型的です。「最近うちのじいちゃん（またはばあちゃん）物忘れが進んでボケてきたね」「年とったからしかたないかな」ですまされていることもあり、注意が必要です。慢性硬膜下血腫は、治る可能性のある認知症の一つですから。

Q：治療や予後は？

A：治療は手術が必要なら手術。局所麻酔で行い、比較的簡単です。頭皮を数 cm 切って、頭蓋骨に 1 円玉より小さな孔をあけると白い硬膜が見えてきます。これを切開して血腫の外膜を破ると、典型的には静脈血のような血腫が噴出してきま

す。この血腫を吸引除去し、血腫が溜まっていたところを生理食塩水で洗浄して、ここにドレーンという管を留置すれば、あとは創を閉じておしまい。ドレーンは翌日か翌々日には抜きます。手術でたいてい治癒し、患者やご家族に喜ばれるので脳外科医にとっては嬉しい疾患です。ただ、再発（再貯留）することは決して稀ではありません。また一般的に予後良好とは言え、超高齢社会となり、80歳代後半、90歳代の患者さんでは、そうとも言えなくなってきました。

【慢性硬膜下血腫の頭部 CT: 向かって左側に血腫があります。向かって右側は正常脳】



ということで、頭を打った方へ

24時間以内に頭痛や吐き気、手足の麻痺などが現れた、あるいは悪化してきた場合は、再度早めに医療機関を受診なさってください。本日入浴してはいけないことはありませんが、なさらない方が無難かもしれません。

2, 3週間から2, 3ヶ月くらいの間で頭痛、片麻痺、認知症のような症状、尿失禁などが現れたら上記の慢性硬膜下血腫が疑われます。特に高齢者では、再度医療機関を受診なさってください。